

Factors Related to Evacuation Intentions of Power-Dependent Home Care Patients in Japan

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/48202

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



平成 29 年 2 月 20 日

博士論文審査結果報告書

報告番号

学籍番号 1329022029

氏 名 中井 寿雄

論文審査員

主 査 (教授) 城戸 照彦

副 査 (教授) 須釜 淳子

副 査 (教授) 塚崎 恵子

論文題名 Factors Related to Evacuation Intentions of Power-Dependent Home Care

Patients in Japan

論文審査結果

【論文内容の要旨】

国内外において在宅療養者とその介護家族の災害への備えを充実することは喫緊の重要課題である。本研究は、高知市全域において生命維持に電源が必須な在宅療養者の備えの実態と、避難意思に影響する要因を明らかにすることを目的とした。療養者 53 人を対象として、日常ケアを担当しているケアマネジャー等の専門職が、「金沢高知式災害備えチェックシート」を用いて聞き取り調査を行った。調査内容は属性、日常生活動作、医療処置、投薬、災害への備蓄、家屋の装備、災害の知識、避難支援者との相談、災害時の支援体制、避難指示発令時の避難意思である。避難指示発令時に「必ず避難したい、避難支援があれば避難したい」意思の者が 56.6%、「避難をあきらめている、避難したくない」意思の者が 43.4%だった。「避難をあきらめている、避難したくない」意思の者のほうが、非常用医療機器等を備えている者の割合が有意に低く、避難経路を支援者と相談している者の割合が有意に低かった。この 2 項目に加えて、年齢、人工呼吸または吸引の連続的な使用、災害特性と脆弱性を知っている、近隣住民からの支援を独立変数、避難意思を従属変数として二項ロジスティック回帰分析を行った結果、人工呼吸または吸引の連続的な使用者は「避難をあきらめている、避難したくない」意思の者により多く ($B=-1.688$ 、オッズ比 0.186、 $p=0.037$)、非常用医療機器等を備えている者は「必ず避難したい、避難支援があれば避難したい」意思の者により多かった ($B=1.747$ 、オッズ比 5.735、 $p=0.013$)。本人と家族に加え、専門職と近隣者が非常用医療機器等を使って避難支援できるシステムづくりが必要であると考えられる。

【審査結果の要旨】

本研究は在宅療養者の災害への備えと避難意思を詳細に明らかにし、その特徴と関連要因を国内外において初めて示したものである。本成果は国内に限らず、海外の在宅療養者の災害時の生命を守るための防災対策に有用であり、研究の意義が高い。公開審査では、母集団、分析方法、外的妥当性、成果の還元と今後の発展に関して質疑され、適切な応答がなされた。

以上、学位請求者は本論文の論文審査及び最終試験の状況に基づき、博士(保健学)の学位を授与するに値すると評価する。